

グローバル通信

2015.6 vol.37

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

気が付くと梅雨の季節となりました。新年度がスタートしてはや、2ヶ月経ちましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

2015年度最初のグローバル通信は、昨年度の本コース修了式の様子、新しく着任された先生方の紹介、特別演習（水曜日、土曜日）に集う新入生の自己紹介、南京大学金陵学院との交流活動のレポート等、盛りだくさんの内容をお届けします。

梅雨時は、何かと体調を崩しやすい季節です。カレンダーをめくれば7月中旬は修士論文の中間報告会がせまっています。お忙しい方も多いとは思いますが、しっかり研究プランを練りながら、元気に朱夏を迎えましょう。
(編集部)

地方自治雑感 制度論に矮小化されない地方自治を	1
新たな知見やスキルを獲得し、地域社会に貢献したい	1
新任教員ご挨拶	2
2015年度特別演習新入生自己紹介	3
修了生の今	4
海外交流活動レポート 南京大学金陵学院との交流活動	4
教務課スタッフ紹介	4
編集スタッフの紹介	4
事務局インフォメーション	4



地方自治雑感 制度論に矮小化されない 地方自治を

藤沢 直広 (滋賀県日野町長)

5月17日、「大阪都構想」の住民投票は、投票率66.8%にもなり関心の高さが示されました。結果は反対70万票対賛成69万票という激戦になりました。大阪都構想は、「二重行政の無駄をなくす」ためとか「府と市を一人の指揮官が指揮する」ためとかいわれましたが、冷静に検証すれば説得力のないものです。行政の無駄をなくすことは当然ですが、例えば「国が主要国道を管理し地方の主要道を府県が管理し身近な生活道路を市町が管理すること」は、「二重行政の無駄」ではなく合理的だと思います。「一人の指揮官」にすれば大きな事業ができるといいますが大きな事業は丁寧に議論し府と市が協力して調整すべきものです。大阪都構想の内実はともかくとして、社会全体に閉塞感が漂う中で、「何かを変えなければならない。改革は必要だ」という思いが大阪都構想への期待につながり、「大阪市に愛着をもって住み続けたい」「大阪都構想でどうなるかわからない」などの思いが反対につながったのではないかと思います。「改革と愛着」はいずれも今後のまちづくりに必要だと思います。

10数年前、全国に平成の大合併の嵐が吹き荒れました。当時「合併しないと自治体はやっていけない」とか「行政サービスは高く、負担は低くなる」と大宣伝されましたがそのようにはなっていません。地方が疲弊したという感覚や「合併して良いことはない」という声は少なくありません。平成の合併を推進した地方制度調査会の西尾勝氏は「平成の合併は失敗だった」とも発言されています。地方自治法第一条にあるように地方自治体の役割は住民福祉の増進にあります。政治の中身が問われているにも関わらず、「市町村合併」「大阪都構想」さらには「道州制」という制度論に矮小化することは良くないと思います。

憲法九十二条に規定された「地方自治の本旨」がいきる地方自治を実現するために真摯な議論が大切だと思います。「世界で一番国民が暮らしやすい国」にするために力を合わせましょう。

新たな知見やスキルを 獲得し、地域社会に 貢献したい

松田 義浩 (京都青年司法書士会 会長)



京都青年司法書士会には、京都府下の若手司法書士を中心に約130名の会員があり、「市民の権利擁護及び法制度の発展に努め、もって自由かつ公正な社会の実現に寄与すること」を目的とし、様々な活動をしています。例えば、司法アクセスに問題を抱える京都府北部地域（宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）において無料相談会を開催しています。また、イオンモール京都五条にて弁護士や税理士など他士業との合同相談会を主催していますが、気軽にワンストップで相談できる催しとして、ご好評をいただいています。さらに、多重債務、生活保護、労働、東日本大震災の被災者の方々がかかえる問題などの社会問題の解消に向けての取組みも行っています。

司法書士の業務は、不動産登記（相続や売買、住宅ローンの抵当権設定や抹消等）、商業登記（会社の登記）、裁判関係業務（簡易裁判所での訴訟代理や裁判所提出書類の作成）、成年後見（認知症高齢者や知的・精神障害者の財産管理・権利擁護等）など多岐にわたっていますが、いずれも地元に着目しており、地元の方からご相談を受けることがほとんどです。その意味で司法書士は地域密着型の職業であり、業務をととして、地域の人々が抱える様々な問題にぶつかります。それらの問題の解決に当たっては、行政や地域住民の方との連携が必要になる場合も多くあります。例えば、生活困窮者の成年後見業務の場合には、行政や社会福祉協議会との連携が欠かせません。

司法書士が業務を通じてぶつかる問題の解決にあたっては、現状を知り、法や関連領域の調査研究を行うことが必要になります。京都青年司法書士会には、鋭い問題意識を持ち、社会問題の解決に取り組みたいと考える多数の会員がいます。当会が、龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コースと地域連携協定を結び、当会が推薦した若手司法書士が、研究環境の充実した環境で学ぶことができるのを、大変喜ばしく思っています。当会会員が研究をととして新たな知見やスキルを獲得し、地域や社会に少しでも寄与する活動ができるように願っています。



— 2014年度 NPO・地方行政研究コース —

修了おめでとうございます



龍谷大学に着任しました

飽くなき好奇心と足で稼ぐ調査

青山 公三 先生 (社会科学のための調査研究技法、キャップストーン等を担当)

私のもともとの専門は都市計画・地域計画ですが、私自身、日本とアメリカのシンクタンクでそれぞれ15年ずつ働いた経験があり、広範囲な分野にわたって調査・研究を行ってきました。例えば具体的には危機管理や広域行政、経済振興、産業クラスター、都市再生、エリアマネジメント、行政改革、市民参加、農山村振興等々、多分野にわたります。各分野の調査を行うにあたり、どのような分野であっても、常に旺盛な好奇心を持ち、実際に現地を歩いて、様々な人々に会い調査にあたってきました。このような約30年にわたる日米のシンクタンクでの経験を生かして、皆さんのあらゆる好奇心に応えられるよう努力したいと思います。特にアメリカの情報に関して、必要なことがあればどのようなことでも結構ですので遠慮なく連絡ください。



垣根を越えた学びの場で料理の腕を磨こう

今里 佳奈子 先生 (行政学研究、地方自治体研究等を担当)



行政学研究などを担当する今里です。これまで西九州大学、熊本県立大学、愛知大学と3つの大学で講義等をしてきましたが、大学院での担当は、4年ぶりです。早速、社会人院生の方を指導することとなり、修士論文の構想をめぐり、時には2～3時間にも及ぶ話し合いを続けているところです。

1～2年で論文を作成するのは、予想以上に大変な作業です。あらかじめ課題を与えられているレポートなどとは異なり、論文では、対象とする課題から設定しなければならないし、それを料理するための道具も自分で選ばなければなりません。また、切れ味の悪い刃物を研いで短期間の間によく切れる刃物に仕立てなければなりません。これらは本当に大変な作業ですが、一方でやり遂げた時の達成感は苦労すればするほど大きなものになるようです。政策学研究科にはさまざまな分野の先生方が分野の「垣根」を超えて指導の手を広げてくださる素晴らしい越境教育体制があるようです。これらを活用し、ぜひ素晴らしい研究成果を出していただくよう期待します。

五感を使って考える

大石 尚子 先生 (農村政策研究、政策実践・探究演習 I A (国内) を担当)

政策学部の一員として、皆さんとともによりよい社会づくりを目指しながら政策学の発展のために頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。2011年同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程修了し、本学地域協働総合センターで、大学地域連携事業の推進を担っております。現在は、農村地域再生政策論や農村政策研究を担当しています。ソーシャル・イノベーションという概念を軸に、地域振興のための食農政策研究や人材育成エコシステム構築のための実践的研究を進めています。自身の活動では、「種から布へ」をコンセプトに、衣の自給「スロー・クローズ」活動というものをやっていますが、こうした活動を通じて、衣食住をもう一度捉えなおし、消費という価値観の転換を模索しています。私のモットーは、「手足を動かし、五感を使って考える」です。皆さんとともに、現実をしっかりと見つめながら地域づくりのプロセスデザインを進めていきたいと思います。



2015年度特別演習 新入生自己紹介

本コースに新たな新入生が入学されました。特別演習ごとに新入生の自己紹介と集合写真を掲載しております。

①名前 ②所属(協定先のみ) ③研究テーマ、関心のある分野

①平井 美咲

③私は学部生時代での留学から環境に、ボランティア活動から観光まちづくりに興味を持つようになりました。政策学研究科では、環境と観光まちづくりを合わせて「エコツーリズム」に着目して研究を進めていきたいです。皆様どうぞよろしくお願ひします!!

①岩松 義秀

②京都府庁(京都府南丹広域振興局企画振興室)
③亀岡市、南丹市、京丹波町を管轄する京都府南丹広域振興局に勤務しています。地方振興局という現場直結の部門に属し、直接、市町村、NPO、市民と接しすることで、地域の振興がどうあるべきか、実務・実践を通じて考えてきましたが、行政の事務事業や組織体制には疑問に思うところもあり、かねてより地域の課題の解決には、「研究」が必要ではないかと考えています。様々な職場から来ておられる社会人院生の刺激を受け、連携しながら貴重な財産を築きたいと思っています。

①横山 愛華

③龍谷大学政策学部より進学してきました。温暖な瀬戸内、岡山県の出身です。住まうことや食べることなど、私たちが生きることと密接に関わるエネルギーや環境問題に、現代社会はどのように共存していくべきかと考えています。世界を変えることは出来ないけれど、少しでもよい方向に、一押しでも出来る人でありたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

①藤原 悠

③私のテーマは「地域における再生可能エネルギーの取組」についてです。私の出身地である岡山県の真庭市に、林業で発生する間伐材で木質バイオマス発電に利用する取組があることに強い関心を覚えました。この経験を踏まえ、その地域の景観を損なわず、自給自足でエネルギーを供給する社会の在り方を研究していく方針です。

水曜日 担当 白石先生・植田先生



①中村 保ノ佳

③学部の時から域学連携事業に関わらせていただき、大学と地域の連携による地域活性化ということに関心を持ちました。持続可能な地域活性化のために大学が求められていることは何か、大学の学びとは何か、「大学」というキーワードを持って研究したいと思っています。

①永末 晃規

③卒論では、繁華街と大型商業施設に対する大学生の消費傾向・志向から、両者の性質・差異を見出すことをテーマにしました。修士課程では、テーマに関連する学問の基礎を習得しつつ、現代社会における自然発生的な商業の集積についての整理と、その政策的なナッジメントにまで議論を深められたらと思っています。

①吉田 智美

③主な研究分野は都市計画・まちづくりです。特に、都市で生活を営む人々の中に存在する格差や貧困の問題が、都市空間にどのようにカタチとして現れるのかという点について研究しています。修士課程では、国内だけでなく海外の都市の調査も取り入れながらより広い視点で研究を進めていこうと思っています。

①

③私は学部時代から中村ゼミナールで地域経済、地域産業政策について学んできました。グローバル化が進むなかで、日本では先端的な地域や政策をモデルにした地域産業政策が展開されています。しかし、そこには多くの課題があります。これらの問題を大学院でも中村先生に師事し、勉強し研究を深めたいと考えています。

①木村 尚

②大津市役所(消防局)
③阪神淡路大震災や東日本大震災のような大きい災害は消防力が劣勢となります。このような時に頼りとされるのが自主防災組織です。将来発生するといわれている南海トラフ地震の減災対策として今後自主防災組織をどう導けば地域の防災力向上に繋がるか。今考えている研究テーマです。

①澤田 猛虎

③現時点では、多文化共生をテーマに、人々が共存可能な社会とはどのようなものかについて研究していきたいと考えています。昨今日本では、人種の排斥運動、いわゆるヘイトスピーチや、歴史的背景などから日本に生まれる外国人の方を排斥していくこととする動きが問題となっています。それがなぜ起こるのか、またどうすれば根絶可能かを研究テーマとしていこうと考えています。

①八尋 優子

②木津川ダルク(きょうとNPOセンター推薦)
③薬物依存症からの回復における鍼灸治療実践とNPO活動の意義について、研究をしています。治療者と患者の関係ではなく、共に生きる仲間として寄り添うこと。過剰な医薬品に頼らず、自然治癒力を最大限に発揮することを意識して活動しています。安全で低コストな鍼灸治療について、多くの人に知って頂きたいと思っています。

①石川 桃子

③私は卒業論文に引き続き、修士課程でも「子どもの貧困と日本国憲法」について研究を深めていく所存です。子どもの貧困に焦点を当てながら、憲法が目指す「多様な幸福感を理解し、受け入れ、支援する福祉国家」としての日本がこれから歩むべき道を、より詳細かつ多角的に検討していきたいと考えています。

①萩野 正

③私の感心のある分野は農業です。私の家が山科で農業をしていることもありまして、農業が衰退してきているのを肌身に感じています。どういった政策をすれば農業を救うことが出来るか。地産地消や六次産業化などが取り上げられていますが、農家自身がどういった取り組みをしていくことが有効なのかを在学期間中に考えていきたいと思っています。

①稗田 和博

②大阪NPOセンター
③フリーランスのライターをしています。ホームレスの自立支援雑誌「ビッグイシュー」の創刊から関わり、多くのNPOや市民活動を取材。その中で、生きづらさを感じている人が世の中にはこんなにたくさんいるのかと驚き、同時に「普通のすごい人々」の存在に惹かれてきました。研究テーマは市民社会とメディア。……ですが、早くも前途多難です。

①益田 卓弥

②近江八幡市役所
③旬のテーマである「人口減少社会における各種課題と対応」等について知見を深めたいと考えています。年齢・気力・体力・仕事・家庭・地域等を踏まえるとラストチャンスでは無いかとチャレンジしています。組織を離れないかと交流し、多くの学びを得て、市様に還元できるよう頑張ります。

土曜日 担当 大矢野先生・渡辺先生



①中原 宏治

③今は市民討議会という政策手法を研究しています。無作為によって抽出された市民同士が話し合った結果を政策に取り込む熟議民主主義の考えのもと、話し合いを核とした市民主体のまちづくりや市民活動をいかに創出するかということを探求したいと考えています。

①喜多 和美

②NPO法人 あったがサポート
③雇用機会均等法が成立して30年、女性労働者の状況はどう変わったのでしょうか。最近では、「多様な正社員」という雇用形態が広がっています。そんな女性労働者の現状と課題を探り、今後の活動に生かしていきたいと考えています。

①田中 友悟

③地球規模の持続可能性の危機が拡大し、日本においても課題先進国として様々な問題が顕在化している今、人類規模のパラダイムシフトが必要とされています。日本の地域を対象に、その為のモデルとなりうる地球規模での生存可能性に基づいたこれからの生き方、持続可能な地域構造を研究したいと思っています。

①村上 毅

②京都青年司法書士会
③南丹市園部町にて司法書士をしています。相続登記などの業務をとおして、空き家の増加を実感していて、空き家問題に関心を持っています。興味深い授業が多く、授業に出るのが楽しみです(これで修論が無ければ...)。得たい機会です。久しぶりの学生生活をできる限り充実させたいと思っています。ちなみに、京都青年司法書士会では45才までは「青年」です。

①北小屋 裕

③前職は、消防職員で救急救命士として、救急現場に出勤しておりました。昨今の救急事情は、救急件数が飛躍的に増加し、今までは、救急出勤に支障をきたす恐れが出てきております。そのため現在の救急システムを維持するため、どのような政策が必要であるかを研究したいと思っています。よろしくお願ひいたします。

①篠田 雅浩

③35年間勤務した地方公務員(京都府)を定年退職し、総括の意味で勉強のし直しです。仕事をしながらいろいろと矛盾を感じることも多く、そうしたことがらの要因をいくつかなりとも、解明していきたいと思っています。そうした観点から、政策立案過程における民意のあり方を研究するつもりです。

①李 美玲

③国際化学部出身です。中国における環境問題について学びたいと思って政策学研究科に進学することを決めました。金先生と大石先生の農村に関する授業を取らせていただき、ますます農村政策に興味を持つようになりました。現在の段階で環境問題にも農村政策にも関心があります。よろしくお願ひいたします。



外からの視点で自治体の存在意義を再発見

大学院を修了して4年。在学時には、京都市下京区でまちづくりを担当していましたが、その後、市の監査部門に異動し、現在は広報課に在籍しています。

院修了後、異動で業務が変わる中、在学中の専門テーマ（地域コミュニティ）をダイレクトに仕事で活かせることは少ないですが、大学院で先生や同級生との議論を通して外の視点で行政を見られたことの意義は大きかったと思っています。市役所が外からどう見えるか、また市役所が持つ力（の源）として、権限や予算の他にも「信頼性」「リーダーシップ」「つなぐ力」などに気付かされました。これらを意識することで役所の新たな役割が見えて、下京区役所では新規業務の創造につながりましたし、その後も、常に部署の存在意義や役割、業務の在り方を考えるようになり、大学院に通ったことで仕事のスタンスも変わったと思っています。

海外交流 活動レポート

南京大学金陵学院との交流活動

南京大学金陵学院との環境管理実践教学交流活動として、3月6日から13日にかけて中国の南京へ行ってきました。地域自然資源の再評価と活用をテーマに、①湿地保全、②水郷の伝統的な街並み保全、③里山の利活用の三つのグループに分かれ、日中の学生が混合でグループを組み研究活動を行いました。文化や言語、また学問の違いもあり、なかなか上手く進められない期間もありましたが、苦勞した分発表を終えた後の達成感は一入でした。今回の経験は、地域社会の課題を考える上での理論的な学びだけでなく、国際的な視点や交流を持つなかでしか気付かないモノがある事を知れたことが最大の収穫だと思います。今期から海外PBLプログラムとして始動されるので、多くの学生にとって良い学びの機会となることを願っています。

(政策学研究科 修士課程2年生 奥上祐介)



教務課スタッフ紹介

2015年度のNPO・地方行政研究コース担当者です。コース生皆様の教育研究をサポートさせていただきます。

何かご不明な点がございましたら、お気軽に窓口へお越しください。お待ちしております。



左から斎藤雄二（政策学部教務課）、内藤多恵（政策学部教務課 課長）、河野英治（法学部教務課）

編集スタッフの紹介

グローバル通信 37号は昨年度担当の植村暢子と今年度からの担当となった石川桃子・中原宏治の3名で編集を行いました。本コースの活気の伝わる紙面づくりを心がけていきますので、今年もグローバル通信をよろしくお願ひします。

(編集部)



事務局インフォメーション

●地域リーダーシップ研究/先進的地域政策研究 講演会

○第2回

日時：7月4日（土）13：30～15：00

テーマ：「公害資料館」ネットワークの意義—公害の時代から半世紀

講師：林美帆（あおぞら財団研究員）

教室：龍谷大学深草学舎 和顔館 B106教室

○第3回

日時：8月1日（土）13：30～15：00

テーマ：戦後70年—戦争加害国ドイツの話しよう

講師：ふくもとまさお（ドイツ・ベルリン在住/フリージャーナリスト）
教室：龍谷大学深草学舎 紫光館4階 大講義室

●論文中間発表会

日時：7月18日（土）13：00～18：00

場所：龍谷大学深草学舎 和顔館 B103教室

●協定先団体懇談会

日時：7月29日（土）12：00～14：30

場所：龍谷大学深草学舎 紫英館 大会議室

NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻37号 2015年6月

発行／龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース

連絡先／政策学部教務課

TEL：075-645-2285 FAX：075-645-2101

H P／http://www.ryukoku.ac.jp/gc_npo/

編集／植村暢子、石川桃子、中原宏治

編集補助／斎藤雄二

監修／大矢野修、的場信敬

印刷／株式会社 田中プリント